

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	動物保護センター	階数	地上2F
建設地	神奈川県平塚市土屋字舞ヶ窪401外15筆	構造	RC造
用途地域	未指定(市街化調整区域内)	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年4月20日
敷地面積	25,677 m <sup>2</sup>	作成者	㈱日生建築計画研究所
建築面積	1,515 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,743 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b> 市街地調整区域である敷地に現存する老朽化した既存建築物の建替えを行う計画である。敷地北側は高低差約23mの斜面で、既存建物の建設当時の林があり、周辺の単調な田園風景に変化のあるスカイラインと濃い緑色のコントラストを際立たせ、周辺環境に良好な里山の風景の一部を形成している。 本計画にあたり、既存の里山風景の継承に配慮しながら、環境へおよびる影響に配慮した検討を行った。</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> 標準的な室内環境性能を確保し、空調は、内部負荷と要求性能に合わせた機器を選定し、室ごとの制御を行えるように計画をした。 照明設備は、居室は昼光を最大限活用する大きな開口部を設け、かつ、ブラインドと庇を併用することで日射及びグレアに配慮し、照明器具も系列分けをして必要な部分に必要なときだけ照明を点灯できる計画とした</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 公共施設であるため、最小の面積設定での設計であるが、維持管理性能への配慮を重点的に整備した計画としている。</p>	<p><b>その他</b> 軟弱地盤であるが、杭の設置に伴う汚泥を発生させないように、地盤改良を行い直接基礎とすることで建設廃材の減量を行っている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 適正負荷の詳細な検討、及び高効率機器の導入により消費エネルギーを抑え、BEIm=0.7を目標に計画を行った(算定BEIm=0.68)。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 全ての設備機器に節水器具を採用し、省資源化への配慮を行った。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 遠景からの里山風景をみださない建物ボリュームとするために、「北側の丘のスカイラインを越えない事」を前提に計画を行った。また、既存の環境を極力保存し小動物の生息域を継承し生物資源の保存へ配慮し、「地域開放」及び「動物とのふれあい」を前提に配慮した施設としている。</p>
		<p><b>LR3 敷地外環境</b> 敷地内に十分な空地を確保し、北側の丘より建物を低く計画する事で風の通り道を阻害することを最小限にとどめ、舗装部分を最小限にとどめ周辺の温熱環境へ配慮した計画とした。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される